

# LMcorsa

**60**  **H.YOSHIMOTO**  
 **R.MIYATA**

2019 SUPER GT Round 8, MOTEGI GT 250km RACE

11月3日 | 天候：晴 | コース：ツインリンクもてぎ | 路面：ドライ(路温：25度)

## Final Day Summary

9番グリッドからスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は  
タイヤ2本交換の戦略を遂行しドライバー、チームともにミスなく9位でフィニッシュ  
2019年シーズンをポイント獲得で締めくくる

## Final Day

年間8戦で競われてきた2019年のAUTOBACS SUPER GTシリーズは、11月3日(日)にツインリンクもてぎで実施された「MOTEGI GT 250km RACE」で締めくくられた。

2日(土)に行なわれた予選では、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3にとって得意なコースではなかったが、今季ベストリザルトとなる9位を獲得し、チームの着実な成長をみせた。最終戦は全戦参戦してきたマシンのウエイトハンデがなくなることや、決勝レースの距離が250kmと通常より短いことから、いつもより戦略性が求められることとなる。

3日は事前の天気予報だと雨が降ることも予想されたが、サーキットはときどき陽が差し込むなどレースウィークの中でもっとも気温があがり、快適なレース日よりとなった。決勝レース前の最終走行となるウォームアップは、予定通りの11時55分からスタート。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3にはスタートドライバーを務めた宮田莉朋選手が乗り込み6周を走行し、続けて吉本大樹選手も6周を走ってマシンの最終確認を実施。

ウォームアップ走行後にはそのままスタート進行が始まり、13時30分に栃木県警のパレードランによって最終戦の火蓋が切られた。9番手からスタートした宮田選手は、1周目から先行車を追い掛け8番手に浮上。3周目にはベストタイムとなる1分50秒540をマークし、上位を狙っていった。



## Final Day

しかし、トップ集団のマシンはラップタイムが速く、序盤はポジションキープに徹する。

LMcorsa では、上位を狙うためにピットストップの時間を短縮させるため、2本のタイヤのみ交換する戦略を立てていた。そのため宮田選手は、なるべくタイヤを摩耗させないように走らせ、それでも後続のマシンよりも速いペースで周回を続けた。10周を経過しても8番手をキープしたま



まレースは展開していく。13周目に後続から追いつけてきたマシンに抜かれて9番手に後退するが、レースが1/3を超えた16周目になるとピットストップを行なうマシンが出始める。上位陣がピットストップを実施するなかでSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は順位を上げていき、18周目には5番手、20周目には4番手、21周目にはトップに立つ。トップに立ったまま3周を周回し24周目に宮田

選手は、ピットロードにマシンを進めた。予定通りにタイヤはリアの2本のみを交換し、給油を実施。後半のスティントを担当した吉本選手は10番手でコースに復帰すると、30周目に2台をパスして8番手に浮上する。翌周にはピットストップを行なっていなかったマシンがピットに戻ったために7番手となる。ラップタイムも上位陣と遜色ない1分51秒で周回し、レースは終盤を迎える。だが、徐々にタイヤのグリップが低下し始め、40周目にはラップタイムに勝るマシンにパスされ8番手となる。さらに44周目にも1台にパスされ9番手となり、吉本選手は暴れるマシンをねじ伏せながらチェッカーを目指した。最終盤の2周は後続から常にプレッシャーを掛けられたが48周目に9位でチェッカーを受け、最終戦をポイント獲得で締めくくった。

今シーズンは使用するタイヤをダンロップに変更し、これまで積み上げてきたデータが使えない場面もあった。それでもチームは着実に進化していき、第6戦のオートポリスラウンドではSYNTIUM LMcorsa RC F GT3での初優勝を飾った。全戦でポイントを獲得することはできなかったが、吉本選手が27ポイントでドライバーズランキング10位。1戦欠場した宮田選手は25ポイントでドライバーズランキング12位というリザルトを収めた。





## Team Comment

---



Director :飯田 章

まず、シーズンを通して大きなクラッシュやトラブルもなく無事に終わられたことに感謝しています。最終戦の結果としては予選で今季ベストでしたし、決勝レースは簡単ではなかったですが成長を見せられたと感じています。ランキングも10位で昨シーズンより上がっていますし、初優勝も果たせました。緊張感あるレースの中でチーム全体が前に進んでいる印象を受けています。今シーズンで得られたデータやノウハウなどを、しっかり来年に繋げられるようにしたいです。



Driver :吉本 大樹

決勝レースは、ピットストップでリアタイヤのみの交換を予定通りに実施しました。ピットのタイミングは、タイヤの摩耗がどのようになるか分からなかったため、25周目とちょうど真ん中に設定しました。後半の走り始めはライバル勢より速く2台をパスできましたが、終盤でグリップが低下してしまい防戦一方となりました。それでも9位でフィニッシュでき、予選のポジションと合わせて良いレースだったと思います。RC F GT3 が苦手としているサーキットで、自力でポイントを獲れたことは収穫です。今シーズンはタイヤの変更で序盤は苦戦しましたが、後半からチーム力も上がってきたので、来年に繋がるシーズンとなりました。



Driver :宮田 莉朋

前半のスティントを担当したのですが、タイヤ2輪交換だったことやプッシュしてもタイムアップが望めなさそうだったのでタイヤを労って走りました。前の集団が速かったためポジションキープになりましたが、役目は果たせたと思っています。今シーズンはタイヤが変わったことで、昨年と比べてセッティングなどがゼロからのスタートとなりました。そのなかでクルマやタイヤの作り方が学べて、個人的に良いシーズンとなりました。チームとしても勝つことができ、苦手なサーキットでもポイントが獲得でき、収穫はあったと思っています。

